

The background is a dark green gradient with several flowing, wavy lines in shades of green and yellow. A small globe icon is positioned on the left side, partially enclosed by a circular line.

# infoterla VISION

第18期報告書 2015.4.1~2016.3.31

インフォテリア株式会社

## 「つながり」による価値の創造。

私達インフォテリアは、インターネットという巨大ネットワークを活用した新たな「つながり」によってもたらされる企業価値創造の変革こそが、これからの社会のありようの進化であると確信しています。

「ASTERIA」や「Handbook」をはじめとする製品群、卓越した先見性と技術、そして豊富な実績をベースに、インフォテリアは、人と人、ビジネスとビジネス、そして世界を「つなぐ」エキスパートとして、企業の価値創造を飛躍的に高めるソフトウェアとサービスを開発・提供し、社会に貢献してまいります。

## 売上高と沿革



※実績につきましては日本基準での表記とさせていただきます。



## 中期経営計画 くわしくは P3

# “Triple Twenty”

営業利益率 20%台    海外比率 20%台    フロー売上率 20%台

インフォテリアのビジョン「つなぐ」は、システム、ヒトからモノへと未来に向かって着実に進化しています。



株主の皆様には、平素より格段のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。当連結会計年度における業績は、売上高1,592百万円(前期比9.7%増)、営業利益312百万円(前期比345.0%増)と増収増益となり、特に収益面で大きな改善を果たすことができました。また、期末配当につきまして3円10銭(前期は3円00銭)とさせていただきます。

今後におきましては、新たに策定しました中期経営計画の達成に向けた諸施策を実施することで、当社事業の拡大とさらなる企業価値の高揚に取り組んでまいりますので、今後のインフォテリアにご期待ください。



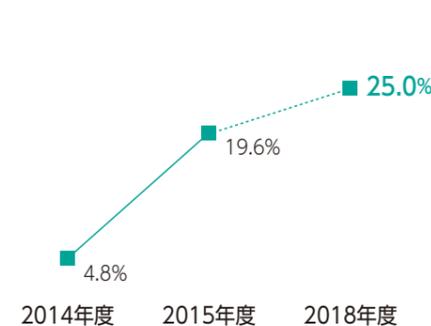
インフォテリアでは、今後の成長を見据え、2016年度から2018年度にかけての中期経営計画を発表いたしました。まず、全社的な目標として、売上高24億円、営業利益6億円とし、これを実現するためのテーマとして“Triple Twenty”を掲げています。



## “Triple Twenty”

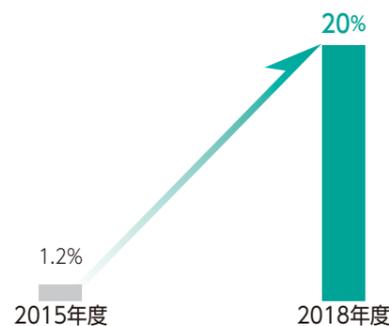
営業利益率を**20%**台に増やす

営業利益率につきまして、今期目標値に近い19.6%を達成しておりますが、本計画の最終年度ではギリギリの20%ではなく、その先までも見据えた25%を計画値として進めてまいります。



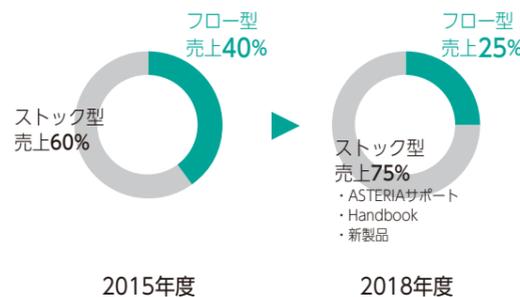
海外比率を**20%**台に増やす

2015年度は国内の活動が活発で海外売上比率は前期より減少していますが、20%を目標に増大させてまいります。このため2016年度以降の新製品は、英語版からリリースすることを基本方針にするなど、世界に向けた製品開発を強化してまいります。



フロー売上率を**20%**台に減らす

これからの着実な売上高拡大のために、全体にみるフロー型(単発型)売上の比率を20%台まで低減させてまいります。安定成長につながるストック型(継続型)の売上拡大を図ることで、中期経営計画の達成をより確実なものとしします。



## “Triple D”

これから起こることとして、インフォテリアでは3つの“D”について考えています。ひとつは「Data」、もうひとつは「Device」そして、「Decentralized(分散化)」のDです。これらはいわゆるクラウドをベースとしたビジネス基盤が構築される現代において、インフォテリアがこの3つの“D”を実現し、加速させるソフトウェアを提供していきます。



### ASTERIA ▶ 領域拡大

これからも新たな技術、新たなソリューションをつないで、新たな価値を創造するベースとして、ASTERIAは領域を拡大してまいります。



これから...



### Handbook ▶ 用途拡大

Handbookはさらにスマートフォンでの利用、新Windowsへの対応など、その利用用途をさらに拡大してまいります。



- 1 スマートフォンでの利活用促進  
これまではタブレット中心
- 2 新Windows環境への本格(UWP)対応  
これまではユーザーの8割がiOS
- 3 インバウンド、BCP等の新用途  
これまでは特定組織内対象

### 3つの新規製品をリリース

また、中期経営計画の期間中に3つの新たなソフトウェアをリリースいたします。これらはASTERIAを中心に、データを中心とするビジネス基盤をノンプログラミングで構築することができる環境を提供してまいります。

“Gravity” (2016 - 日本語版/英語版)	IoT対応のエッジ・ミドルウェア
“Tristan” (2016 - 英語版から)	組織を超えたコンテンツプラットフォーム
“Hawking” (2016 - 英語版から)	IoTアプリのノンプログラミング開発

# 財務ハイライト

Financial Highlights

当連結会計年度における売上高は1,592百万円(前期比9.7%増)営業利益は312百万円(前期比345.0%増)、経常利益は283百万円(前期比703.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は68百万円(前期は親会社株主に帰属する当期純損失75,872千円)となりました。



# 会社情報

Corporate Information

## 会社概要 (2016年3月31日現在)

商号 インフォテリア株式会社  
Infoteria Corporation  
設立 1998年9月  
本社 〒140-0014 東京都品川区大井一丁目47番1号 NTビル10F  
TEL:03-5718-1250  
西日本事業所 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田二丁目4番13号 阪神産経桜橋ビル 3F  
TEL:06-6344-1065  
資本金 11億3,846万円  
事業内容 XMLを基盤としたソフトウェアプロダクトの開発・販売

## 従業員数(連結) 71名

## 海外拠点 (2016年4月1日現在)

- Infoteria America Corporation
- 亿福天(杭州)信息科技有限公司  
Infoteria (Hangzhou) Information Technology Co., Ltd.
- 櫻枫天(上海)貿易有限公司  
Infoteria China Co., Ltd.
- Infoteria Hong Kong Limited
- Infoteria Pte. Ltd.

## 役員の状況 (2016年6月18日現在) ※は社外役員

代表取締役社長 / CEO	平野 洋一郎
取締役	※ 田村 耕太郎
取締役	※ Anis Uzzaman
取締役	※ 五味 廣文
常勤監査役	※ 赤松 万也
監査役	※ 井上 雄二
監査役	尾崎 常行
監査役	※ 小口 光
執行役員 副社長 / 最高技術責任者	北原 淑行
執行役員 / 最高財務責任者	齊藤 裕久
執行役員	黄 曦

## 株式情報 (2016年3月31日現在)

発行可能株式総数 44,600,000株  
発行済株式の総数 15,403,165株  
(自己株式554,202株を含む)  
株主数 12,504名(前期末比8,920名増加)

## 大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
平野 洋一郎	2,040,000	13.24%
北原 淑行	957,200	6.21%
日本証券金融株式会社	898,700	5.83%
株式会社SBI証券	560,000	3.63%
パナソニックインフォメーションシステムズ株式会社	550,000	3.57%
株式会社ミロク情報サービス	528,000	3.42%
古谷 和雄	240,000	1.55%
孫 小蕾	238,900	1.55%
マネックス証券株式会社	141,187	0.91%
中村 智史	124,800	0.84%

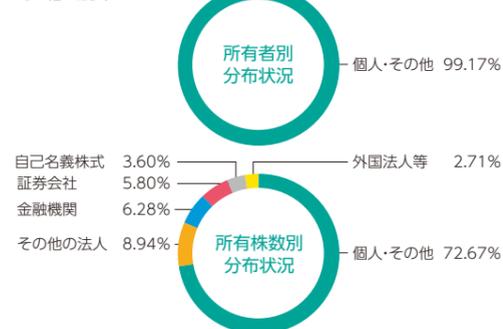
株式会社SBI証券 560,000 3.63%  
パナソニックインフォメーションシステムズ株式会社 550,000 3.57%  
株式会社ミロク情報サービス 528,000 3.42%  
古谷 和雄 240,000 1.55%  
孫 小蕾 238,900 1.55%  
マネックス証券株式会社 141,187 0.91%  
中村 智史 124,800 0.84%

株式会社SBI証券 560,000 3.63%  
パナソニックインフォメーションシステムズ株式会社 550,000 3.57%  
株式会社ミロク情報サービス 528,000 3.42%  
古谷 和雄 240,000 1.55%  
孫 小蕾 238,900 1.55%  
マネックス証券株式会社 141,187 0.91%  
中村 智史 124,800 0.84%

(注) 1. 当社は自己株式554,202株を保有しておりますが、上記の表には記載しておりません。  
2. 持株比率は自己株式(554,202株)を控除して計算しております。

## 株式の状況

証券会社 0.18% 金融機関 0.03%  
外国法人等 0.30% 自己名義株式 0.01%  
その他の法人 0.31%



## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
証券コード 3853  
上場証券取引所 東京証券取引所(マザーズ市場)  
決算期日 3月31日  
定時株主総会 毎年6月  
基準日 3月31日  
公告の方法 電子公告 ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。  
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
通話料無料 0120-232-711  
特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社  
同連絡先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
通話料無料 0120-782-031  
ホームページ <https://www.infoteria.com/>

## ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行株式会社)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行株式会社が口座管理機関となっておりますので、三井住友信託銀行株式会社にお問い合わせください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社ではお手続きできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

皆様の声をお聞かせください!

## infoteria VISIONについてのアンケートご協力をお願い

infoteria VISIONを最後までお読みいただきましてありがとうございます。インフォテリアWebページ上に本号に関するアンケートをご用意いたしましたので、お手数ですが、回答のご協力をお願い申し上げます。なお、ご回答いただいた方の中から抽選で20名様に500円のQUOカードを進呈させていただきます。

アンケートページはこちら [https://www.infoteria.com/jp/contact/enq/ir\\_2016/](https://www.infoteria.com/jp/contact/enq/ir_2016/)

インフォテリア、ASTERIA、Handbookは、インフォテリア株式会社の登録商標です。その他、各会社名、各製品名は各社の商標または登録商標です。

## IRメルマガ配信中

インフォテリアの最近のニュースやトピックス、キャンペーン情報などを、[Infoteria VISION@Mail]として配信いたします。

[https://www.infoteria.com/jp/contact/mail/ir\\_entry/](https://www.infoteria.com/jp/contact/mail/ir_entry/)



CSR

インフォテリアのCSR活動

多様な価値観を尊重する社会に向けて  
(ダイバーシティの推進)

インフォテリアでは、性的マイノリティ(LGBT\*)、外国籍、障がい者の雇用創出に向けた活動を通じて多様な価値観を尊重する社会の実現を目指しています。この活動の一環として、2016年2月にLGBTコミュニティと社会との架け橋を築き多様な社会づくりに貢献している(株)トロワ・クルールの増原裕子氏、東小雪氏を講師にお招きしたLGBTに関する社内研修会を開催しました。

インフォテリアでは創業当初より、採用や昇進において、性別、国籍、人種、宗教、思想などにとらわれない姿勢を貫いてきました。性的マイノリティについても、従来からその思想を排除することなく尊重してきましたが、こうした方々の採用を強化することでより一層のダイバーシティを推進する方針です。

<セミナーの様子>

[https://www.infoteria.com/jp/news/newsttopics/2016/03/03\\_01.php](https://www.infoteria.com/jp/news/newsttopics/2016/03/03_01.php)

\* レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーの総称。



メディア

猛暑日の予報で在宅勤務OK!?

「猛暑テレワーク」の取り組みが  
「第16回テレワーク推進賞」を受賞

2015年8月より開始した、最高気温35℃以上が予想された日にテレワークを推奨する「猛暑テレワーク」の取り組みが「第16回テレワーク推進賞」で「テレワーク実践部門 奨励賞」を受賞しました。インフォテリアではその後も様々なテレワークを取り入れており、2015年12月には「ふるさと帰省テレワーク」を開始し帰省先でのテレワークを推奨、2016年3月11日には災害訓練として「震災テレワーク」を実施し事業継続計画(BCP\*)の枠組みのなかでもテレワークを活用しています。今後も社員の健康や家庭環境に配慮した就業環境の充実に向けて、柔軟なテレワークの導入を計画しています。

\* 通常業務の遂行が困難になる事態が発生した際に、事業の継続や復旧を速やかに遂行するために策定される計画。



新任取締役の声

インフォテリアの社外取締役に就任しての意気込みをお聞かせください。

この度、社外取締役に就任しました五味廣文でございます。私は金融行政に長く携わっており、また最近では経営コンサルティング企業のアドバイザーやIT企業の監査役なども務めてまいりました。

インフォテリアでは、既存事業の拡大ならびにフィンテックやIoTといった先進的な事業領域への展開を強化してい

ますが、私の経験を活かしながら中期経営計画の達成をサポートしていきたいと考えております。

また、企業の長期的な存続、繁栄を確かなものとするためにも、上場企業としてのさらなるガバナンスの強化に向けて的確な指導・アドバイスを行っていくことも私の使命であると認識しております。どうぞ、よろしくお願いいたします。



五味 廣文  
社外取締役

infoteria VISION

対談「インフォテリアが目指す未来」

インフォテリア株式会社



〒140-0014 東京都品川区大井一丁目47番1号 NTビル10F TEL:03-5718-1250



# 「インフォテリア」が 目指す未来

対談

## 平野 × ウツザマン

代表取締役社長 / CEO Anis Uzzaman 社外取締役

ー まずは、ウツザマン社との経歴について教えてください。

**Anis Uzzaman 社外取締役(以下：ウツザマン)：**シリコンバレーに拠点をもちフエノックスというベンチャーキャピタルの共同代表兼CEOをしています。フエノックスは2011年に私がゼロから立ち上げたベンチャーキャピタルで、現在は日本を含むアジア、シリコンバレー、ヨーロッパなどの65社以上に投資をしています。ゼロからベンチャーキャピタルを立ち上げたという点では、私も平野さんと同じアントレプレナー(起業家)ですね。

ー このようにしてインフォテリアとかがわかるようになったの、どうですか？

**ウツザマン：**インフォテリアとのかかわりは、日本のベンチャー企業への投資のなかで、ある企業の方に紹介いただきました。平野さんとお会いし、世界を「なぐ」というコンセプトに共感し協力させていただいています。

**平野 洋一郎 代表取締役社長 / CEO(以下：平野)：**もともとアメリカ、とくにシリコンバレーへの進出・投資を検討していました。しかし、ゼロからの進出・



ー 日本企業の海外展開は難しいといわれています。そのなかで、うまく海外展開できる日本企業の特徴を教えてください。

**ウツザマン：**やはり、最初から海外を見た事業を打ち立てて展開している日本企業は強いと思います。その点で、インフォテリアの戦略は正しいと思います。何を開発するか、どんな製品にするか、の時点で初めからグローバル展開ができるものを事業として選択しています。最先端のプロダクトや技術を活用し、世界中に広がるUI・UX<sup>2)</sup>を心がけているのではないのでしょうか。インフォテリアのやり方は、今後海外展開を試みる日本企業が做すべき点ではないかと思います。

**平野：**ソフトウェアの世界は、他の産業にくらべてフラットです。Osや開発言語と世に世界共通です。私は、フラットゆえに世界共通で使えることに喜びを感じました。一方で、これまで日本のシステム開発企業が多くが個別の受託開発でした。受託開発は、簡単かつ確実に売り上げを確保できる「おいしい食べ物」です。しかし、インフォテリアは、世界に役立つソフトウェアを開発するという考えから、あえて受託開発という「おいしい食べ物」を避けて、一貫してソフトウェア製品を提供してきました。

ー 日本だけでなく世界でも通用するといふものはどんなものですか？

**ウツザマン：**世界のト



**平野：**日本の企業はやはりこうしたトレンドに乗るといふ認識が足りないと思います。現在名だたる大手企業が苦境に陥っています。トレンドに乗れていないから、こうした問題が起きるのだと私は考えています。

**ウツザマン：**日本の多くの企業は変わることに遅く、組織として不十分だと思えます。たとえばサムスン電子(韓国)はシリコンバレーのスタートアップの技術を吸収するべく200名以上がイノベーション業務に携わっています。日本企業ではせいぜい2〜3名です。そして、そうしたイノベーション業務を通じて、良いものを引

投資は自力で行うことは容易ではありません。そんな時ウツザマンさんと出会い、付き合いが深まるなかで、彼の力を借りようと取締役に就任していただきました。たとえば、彼の協力でY Combinator(ワイコンビネーター\*)GDemo Dayにも参加してスタートアップに投資することができました。そこは世界中から約1万社ものスタートアップ企業が応募するなか選ばれた100社に満たない企業だけがデモをできるイベントで、その競争率の高さからスタートアップのハーバードMBAといわれています。

**ウツザマン：**デモに参加できる企業の選定はとてもユニークで、ルール化されていません。Y Combinatorのパートナーが応募者の個性を見て選んでいます。そして、いまままでやってきたかというのは重視しません。むしろ、スタートしたビジネスを最後までやっているかどうか、それを応募者の個性で見極めます。ビジネスが具現化されていない初期段階の場合、最初のアイデアが最後に変わってしまうことはよくあることです。たとえるならば、作り始めたリンゴの出来上がりはオレンジでした、とらうこともありま。そして、リンゴからオレンジに変わるときもきっちり遂行できる能力、バイタリティー、柔軟性、これを判断することが重要なポイントなのです。

\* Y Combinator (ワイコンビネーター):米国カリフォルニア州のVC(ベンチャーキャピタル)。少ないお金を出資しながら、徹底的に次の投資ラウンドに進めるように指導するのが特徴。最強のスタートアップ養成スクールとも呼ばれる。  
\*2 UI・UX(ユーアイ・ユーエックス):ユーザーインターフェイスならびにユーザエクスペリエンス。近年のスマホアプリの成長等により、直感的にわかりやすい操作性、何度も試したい経験(エクスペリエンス)の重要性が高まっている。



対談のロングバージョンをWEBで公開中です  
<https://www.infoteria.com/jp/ir>

き出して、それを自社の製品開発に活かしています。そして、サムスン電子は1社ではなく、サムスングループの複数社がスタートアップにアプローチして、お互い切磋琢磨しています。日本企業も、こうした体制を見習う必要があります。

— 今後、どんな技術が重要になるのでしょうか？

**ウツザマン**：ベースには、クラウド、モバイル、ソーシャルがあり、その上にバーティカル(縦の軸)として、CRM(顧客管理)、ペイメント(電子決済)などがあります。そして、今後のトレンドで注目すべきは、ビッグデータ、人工知能(AI)の活用です。また、インフォテリアが手掛けているブロックチェーンに代表されるフィンテックも重要な技術です。

— フィンテックは今後どのようなインパクトを与えるのでしょうか？

**ウツザマン**：電子決済のPayPalやSquareといった会社はもともとソフトウェア企業であり、ソフトウェア企業ながらも金融分野に進出しました。フィンテックとは、こうしたソフトウェア企業が金融の業務をテイクオーバーする(引き継ぐ)流れです。そして、こうした流れは金融だけに限りません。ビッグデータを活用して、人工知能で分析することで、金融はもちろんのこと、医療農業という分野において、ソフトウェア企業が重要なポジションを占めることになるでしょう。これが現在のトレンドです。



**平野**：フィンテックは金融業界の革命と呼ばれています。革命とは、プレイヤーが変わることです。プレイヤーが変わることで、新しい価値が生まれます。そして、プレイヤーを変えるためには、新しいスタートアップが興り、成長していくことで実現されていくのです。

— インフォテリアの魅力、期待するところ、期待してほしいところはどこなところでしょうか？

**ウツザマン**：インフォテリアの魅力は、意思決定のスピードが速く、新しいものを取り入れやすいことです。企業が大きくなると、動きが鈍くなりますが、インフォテリアの場合は、新しいものを取り入れて実行することがとてもスピーディで効率的だと思います。

**平野**：インフォテリアはソフトウェア製品を開発している会社であり受託開発ではないので、お客様が今欲しいと思うことはやみません。むしろ2〜3年先のビジネスを取り巻く環境、ある

いは、必要となるハードウェアを見越して、開発をしています。たとえば、インフォテリアのプロダクトである「Handbook」は、iPadが登場する前からこうしたコンセプトが根付くと考えて開発しました。そして、ブロックチェーンも話題となる2年以上前から注視していました。そして、今後の注力分野がIoT(Internet of Things)：あらゆるモノをインターネットに接続する仕組み)です。あらゆるデバイスがつながるといことは4年以上前から考えていました。そして、それを実現する製品を今年投入する予定です。

— 最後に株主の皆様へのメッセージをお願いします。

**ウツザマン**：株主の皆様にお願したいのは、既存のビジネスを守りながらも、新しいチャレンジを見守ってほしいということです。既存のトラックを守りながらも、新しいトラックにチャレンジする。チャレンジすることは必ずしも成功するとは限りません。ただし、チャレンジなしでは企業の成長は見込めません。成長に向けてチャレンジする姿勢、それがグローバルで戦う企業にとって重要なのです。

**平野**：インフォテリアを世界に役立つ会社に育てたいと思っています。そのためには、言われたことをやるのではなく、トレンドの流れを作りたいと思います。ウツザマンさんを含めた社内外のパートナーの知見を活かしながら、世界に役立つ会社を目指します。